

～アップサイクルをキーワードに、素材に新たな息吹を～ 当社初のファクトリーショップ「mono-bo」オープン

小松マテレ株式会社は、このたび、当社初となるリアル店舗のファクトリーショップ「mono-bo（モノーボ）」を、6月25日（金）にオープンいたします。



■「mono-bo」の方向性

当社は、創業から78年にわたり繊維産地・北陸を拠点に、染色技術を基盤とした繊維加工事業を行ってまいりました。近年、新型コロナウイルスの感染症拡大により、国内の繊維産業の勢いが落ち込みつつある中、繊維産地の活力を取り戻す一環として繊維の魅力を皆様に体感いただけるファクトリーショップ「mono-bo」を、石川県能美市の本社横にオープンすることいたしました。「mono-bo」は、素材の企画・製造・販売までを一貫して行う工場直販型の店舗となります。

「mono-bo」はSDGsの観点から、今年策定した「小松マテレ・サステナビリティ・ビジョン（2030年に向けた行動目標）」を背景に“サステナブルなモノ作り”をテーマとして掲げています。ここでは“アップサイクル”をキーワードとした商品群を展開する新ブランド「mate-mono（マテモノ）」を中心として、ショップや工房など、当社を身近に感じていただける体感型の施設をめざします。

また、コロナ禍における事業環境の変化に伴い、当社は昨年より、WEB環境を最大限に活かしたメーカー直販型のEC事業を加速させてまいりました。今後は、より一層DtoC事業の拡大をめざすためにも、当社初となる実店舗を設け、WEBとリアルの両面から繊維の魅力を発信してまいります。

■ 名前の由来

当社の本社内に位置し、日本を代表する建築家・隈研吾氏が設計を手掛けたファブリックラボラトリー「fa-bo（ファーボ）」を、繊維の歴史や生産工程が学べる“ファブリック”のラボラトリーとして2015年に一般公開いたしました。今回は、この「fa-bo」の関連施設として、研究開発・企画・生産・販売までを行う商品の出口的な役割を担い、当社の素材を用いたモノ作りおよび販売を行う新しいラボラトリーとして「mono-bo(モノボ)」と命名いたしました。

■ 「mate-mono(マテモノ)」～“サステナブルなモノ作り”をテーマに生まれた新ブランド～

当社の新たなチャレンジとして、独自の加工技術を用いて製造した素材を使い、その特性を最大限に活かす新たな視点での新ブランド「mate-mono（マテモノ）」を展開します。キーワードは“アップサイクル”。サステナビリティへの取り組みの一つとして、製造過程で発生する端切れなど、これまでは廃棄せざるを得なかった素材に焦点を当て、そこから得たインスピレーションをもとに、素材の特性活かしたモノ作りを行いました。

また、デザインのプロセスでも、サステナブルなモノ作りにこだわっています。例えば、カットロスが出ないように商品のデザインを起こし、型を工夫して生地を裁断しています。さらに、縫製後の製品を1点ごとに染められる「製品染め」の技術を用いることで、カラー毎の余剰在庫を減らしています。そのほか、加工での効率性を重視し、「無縫製」で成形することで縫製の工程を省略した商品など、当社がこれまで培ってきた技術を組み合わせ、様々な視点からエコな商品を作り上げています。

さらに、「mate-mono」の魅力は、これらのサステナブルな製造工程だけではありません。素材の特性に合わせて、「折り」「プリーツ」「クラッシュ」などの加工技術を用い、使いやすさ、楽しさを備えたデザインをめざしました。素材を知り尽くした当社ならではの感性で、軽さ、柔らかさ、滑らかさ、ハリ感、伸縮性など、生地の特徴とデザインの力を融合させています。第1弾として、バッグ類からスタートし、今後はさらにアイテムの範囲を拡げて行く予定です。以下に、代表的な商品を一部、ご紹介します。

・fa-bo バッグ 5,500 円（税込）



建築家・隈研吾氏が耐震補強の設計を手がけた、当社のファブリックラボラトリー「fa-bo」。その繊細で美しい放射状の外観イメージからインスピレーションを得てデザインしたバッグです。カーテンの生地の裏面の絶妙な光沢感に着目し、プリーツ加工を施すことで、「fa-bo」の美しい外観を表現しています。

・あんだバッグ 01 3,300 円 (税込)



マスクインナーの製造過程で発生する裁断切れ端を紐状にカットし、手編みで仕上げた個性的なバッグ。「エアロテクノ」搭載で、抗ウイルス機能が備わっています。

・すけるバッグ 01 大 : 3,850 円 (税込) 、小 : 3,300 円 (税込)



カシマサッカースタジアムでも使用されている芝生の養生シートとして作られたメッシュ素材は、軽くて、プルンとした反発感が特徴のシアーバッグに生まれ変わりました。本来は屋外で使用する生地であるため耐久性も兼ね備えています。

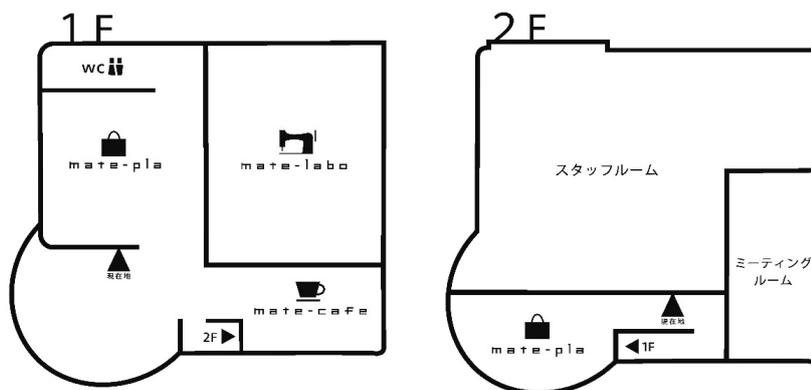
・のびるバッグ 01 3,960 円 (税込)



鮮やかな色と伸縮性のある個性的なチューブ状のバッグは、無縫製で編み上げており、裁断のロスがなく、縫製工程も省略することができます。さらに、1点ごとに染められる「製品染め」技術を活用し、カラーごとにフレキシブルに生産ができるため、余剰在庫が発生しません。

■施設紹介

「mono-bo(モノーボ)」では、ファブリックの世界を様々な視点から感じることもできる3つのエリアを展開しております。



mono-bo フロアマップ

オリジナルショップ【mate-pla(マテプラ)】

当社独自の加工技術を用い、素材の特性を最大限に活かしたオリジナル商品を展開します。新ブランド「mate-mono(マテモノ)」をはじめとした100点以上の商品と豊富なカラー展開から、テキスタイルの魅力や可能性を体感いただけます。もちろん、昨年から好評のマスク・マスクインナー、その他衛生商品も販売しております。

また、2階では、当社素材を使用したワークウェアやユニフォームも取り扱っております。

1階



2階



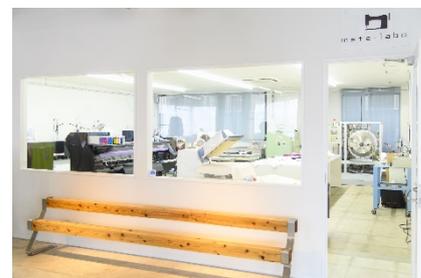
店内のディスプレイには、運搬用のパレットや使用済みのドラム缶を再利用し、ブラスタグの紐はマスク製造で出る端材を使用しています。また、お買い上げの商品は、端材を用いたショッピングバッグに入れてお持ち帰りいただけます。



体感型工房【mate-labo(マテラボ)】

小松マテーレの工場で行っている染色やプリントといった、ファブリックがつくられる製造工程を体感できる工房です。

小型の染色機でバッグをお好きなカラーに染めたり、Tシャツにプリント・刺繍を加えるなど、お好みのセミオーダーアイテムを生み出すことができます。ガラス張りの窓からは、製作工程をご覧ください。



カフェスペース【mate-café(マテカフェ)】

お買い物の合間や、オーダーをお待ちの際などにおくつろぎいただけるカフェスペースです。mate-labo(マテラボ)に隣接しているため、製造工程もご覧いただけます。ウイルス感染症対策として、日本を代表する建築家・坂茂氏が監修による抗ウイルスパーティション「PPSA」も設置しております。繊維に囲まれた柔らかな空間をお楽しみください。



<店舗概要>

- 店舗名 : mono-bo (モノーボ)
- 住所 : 石川県能美市浜町ヌ 168-8 (小松マテレー本社横)
- 電話番号 : 0120-947-009
- 営業時間 : 10:00 - 18:00
- 定休日 : 火曜日 (年末年始、GW、お盆期間)
- ホームページ : <https://www.komatsumatere.co.jp/mono-bo>



<本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先>

小松マテレー株式会社 総務部 広報課 TEL : 0761-55-8070 / FAX : 0761-55-8101